

令和6年度 京都乙訓普及センター 普及指導計画概要一覧表

普及計画課題		普及指導対象	普及指導事項	内 容
重点計画	課題名：担い手の定着と経営改善への支援 【人・組織】	新規就農者等（概ね就農5年までの農業者：研修中を含む） 10名程度/年	新規就農者等の営農継続に向けた基礎講座の開催	新規就農者が農業に必要な知識や技術を習得し、営農を継続できるよう支援する。
		経営力アップを目指す農業者 3名	経営力アップを目指す農業者への個別目標達成に向けた濃密指導	経営力アップを目指す農業者が経営改善のための個別目標を達成し、地域の担い手として経営基盤を確立できるよう支援する。
		農福連携により経営改善を目指す農業者等（福祉関係者を含む） 数名	農福連携による経営改善（発展）に向けた支援	福祉分野の多様な人材に活躍してもらうことで、農業者が経営改善（発展）できるよう支援する。
	課題名：京おくらの高品質安定生産と部会活動強化の支援 【もの・販路】	京おくら出荷部会 （伏見区淀・羽束師・洛南・向島、西京区大原野、長岡京市、大山崎町・21戸予定）	京おくらの高品質安定生産	盛夏期以降の安定生産に向けた品種比較や環境にやさしい病害虫防除の技術確立等により部会員の生産技術向上を支援する。
			京おくら出荷部会の活動強化	新規生産者の部会への加入促進・定着及び部会員の個別面積の拡大による部会活動の強化を支援する。
個別計画	課題名：酒造好適米「祝2号」の収量及び品質の安定確保に向けた栽培支援 【もの・販路】	祝2号栽培農家 16戸	各地域の栽培環境・条件に応じた「祝2号」の栽培指導	「祝2号」生産農家が各地域の栽培環境・条件に応じた栽培管理技術を習得できるよう支援する。
	課題名：転炉スラグを活用した野菜の土壌病害の克服 【もの・販路】	長岡京花菜部会 21名	転炉スラグ施用の励行による根こぶ病発生リスクの持続的低減	花菜の根こぶ病防除対策として転炉スラグの防除効果と適正な施用方法を全会員が理解し、転炉スラグの施用を産地ぐるみで励行することで、根こぶ病の発生リスクを持続的に低減できるよう支援する。
		〈ナス〉 上賀茂特産野菜研究会（賀茂ナス生産者）、向日市ナス生産者	転炉スラグを活用したナス科野菜の青枯病防除対策の改善・拡充	転炉スラグを活用したナス科野菜の青枯病防除対策の改善・拡充ができるよう支援する。
		〈トウガラシ〉 大原野トウガラシ生産者、京北青と部会員		
		ネギ生産者 南区久世、西京区牛ヶ瀬、伏見区淀	転炉スラグを活用したネギ黒腐菌核病の防除技術の現地実証	ネギ黒腐菌核病の多発ほ場で、転炉スラグと薬剤を併用した防除を現地実証し、被害軽減に導く技術的な知見を収集し、効果的かつ実践的な防除技術が検討できるよう支援する。

計画課題		対 象	内 容
調査研究計画	農福連携の促進に向けた作業マニュアル様式の検討	管内全域 春夏野菜生産者：2名程度 秋冬野菜生産者：2名程度 関連の福祉事業所・特別支援学校：4か所程度	農福連携に取り組む農業者が徐々に増えてきているが、作業の内容や伝え方、注意すべきポイント等が整理されておらず、農福連携の取組を進める障壁となっているため、作業手順等を写真やイラストで図解したマニュアルを作業者及び支援者向けに作成し、実用性及び汎用性の高いマニュアル様式を検討する。
	京おくらの盛夏期以降の安定生産に向けた品種比較	京都市右京区西京極 野菜等多品目栽培農家1戸	京おくら出荷部会は、主に京都府内の青果市場に共販出荷しており、高い品質が市場で評価されているが、令和5年の盛夏期の過度な高温少雨下で8月以降の収量や品質が不安定となったため、現行品種よりも高温少雨下で収量や品質が優れる品種を探索する。
	京おくらの環境にやさしいアブラムシ防除技術の検討	京都市伏見区淀及び西京区大原野 京おくら生産者3戸	京おくらではアブラムシ類による被害が問題となっているが、登録農薬が少なく化学的防除だけでは対応しきれないケースが増えている。 農家からはできるだけ農薬を使用せずに環境にやさしい栽培を実践したいという要望も多いため、ヘアリーベッチとソルゴーを天敵温存作物として栽培し、虫害の軽減と農薬使用回数の削減を目指す。
	祝2号の高温対策技術の検討	京都市右京区嵯峨 祝2号栽培農家1戸	祝2号の品質及び収量を安定確保するための技術として、収数過剰の防止と登熟期の肥効向上を目的に①分施肥体系及び②IGT（水温計付き水位センサー、給水ゲート）を活用した水管理の最適化について現地実証する。
	イチゴの第一腋花房分化に応じた能動的な環境制御による12～1月の収量安定化	京都市西京区大原野、右京区太秦、山科区上花山 イチゴ農家3戸	イチゴの先進産地では定植前の頂果房や定植後の第一腋花房を検鏡して花芽分化の確認を行い、花房の生育状態に応じた能動的な環境制御により12月～1月の収量安定化を実践しているが、京都府では検鏡を実施している例は少なく生育データを環境制御にフル活用できていない。 そこで、定植後の第一腋花房の花芽分化の品種間差を確認するとともに、花房の生育状態に応じてハウス内温度を高め、給液ECを上げることで12月～1月に収量の安定確保を検証する。
	赤しその機械化収穫の検討	左京区大原 赤しそ栽培農家1戸	赤しそが漢方薬の材料として試験的に出荷されることとなったが、収穫作業の省力化を図るため茶摘採機を用いて株の上部だけを繰り返し刈り取る機械化収穫を試行し、作業時間短縮や収量向上が図れるか検討する。また、機械化収穫の実用性を評価するため、経営収支を調査する。